

246
8

和志取神社誌
全

014711-000-1

246-8

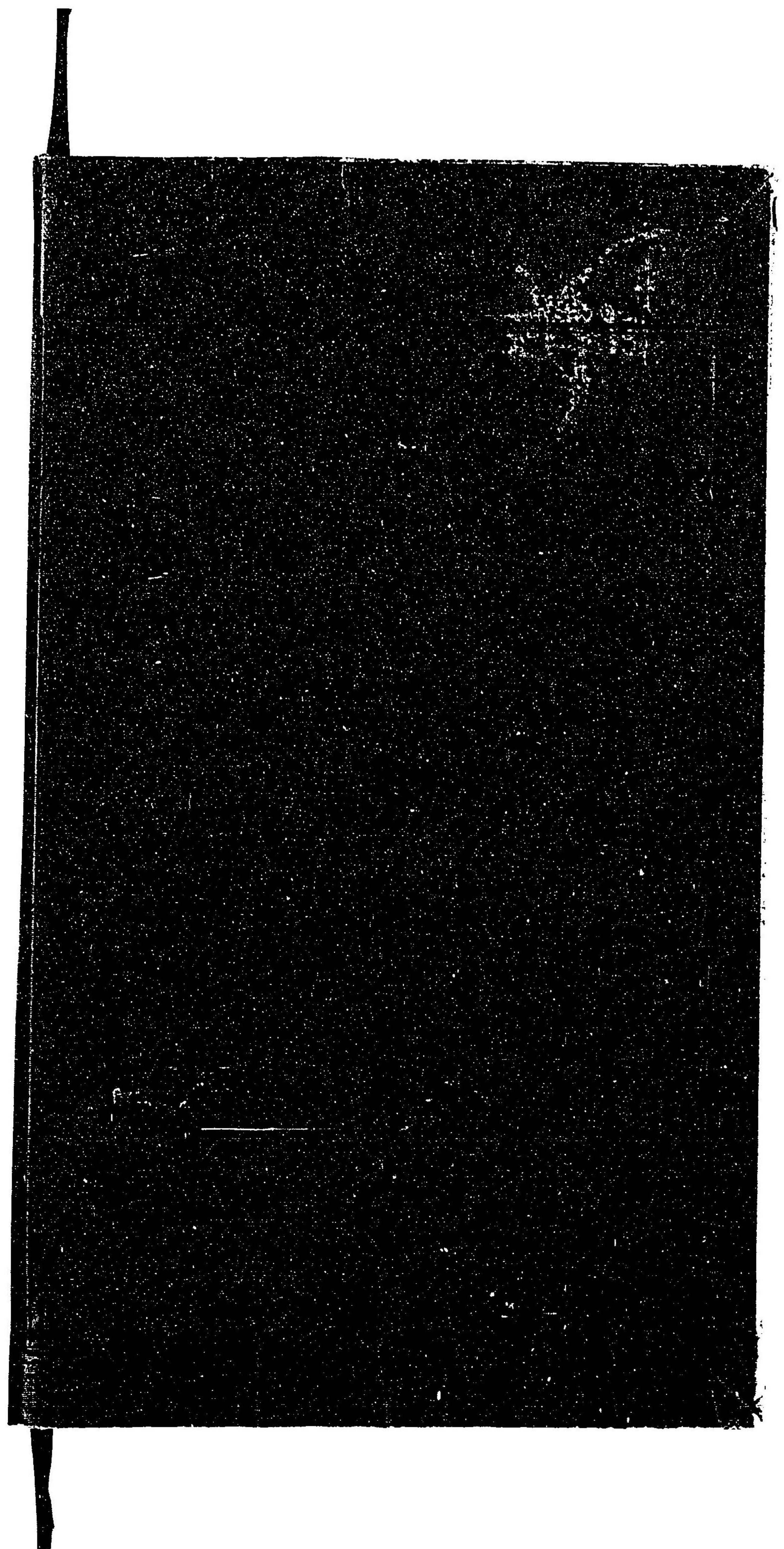
和志取神社誌

大久保 芳太郎 / 編

M40

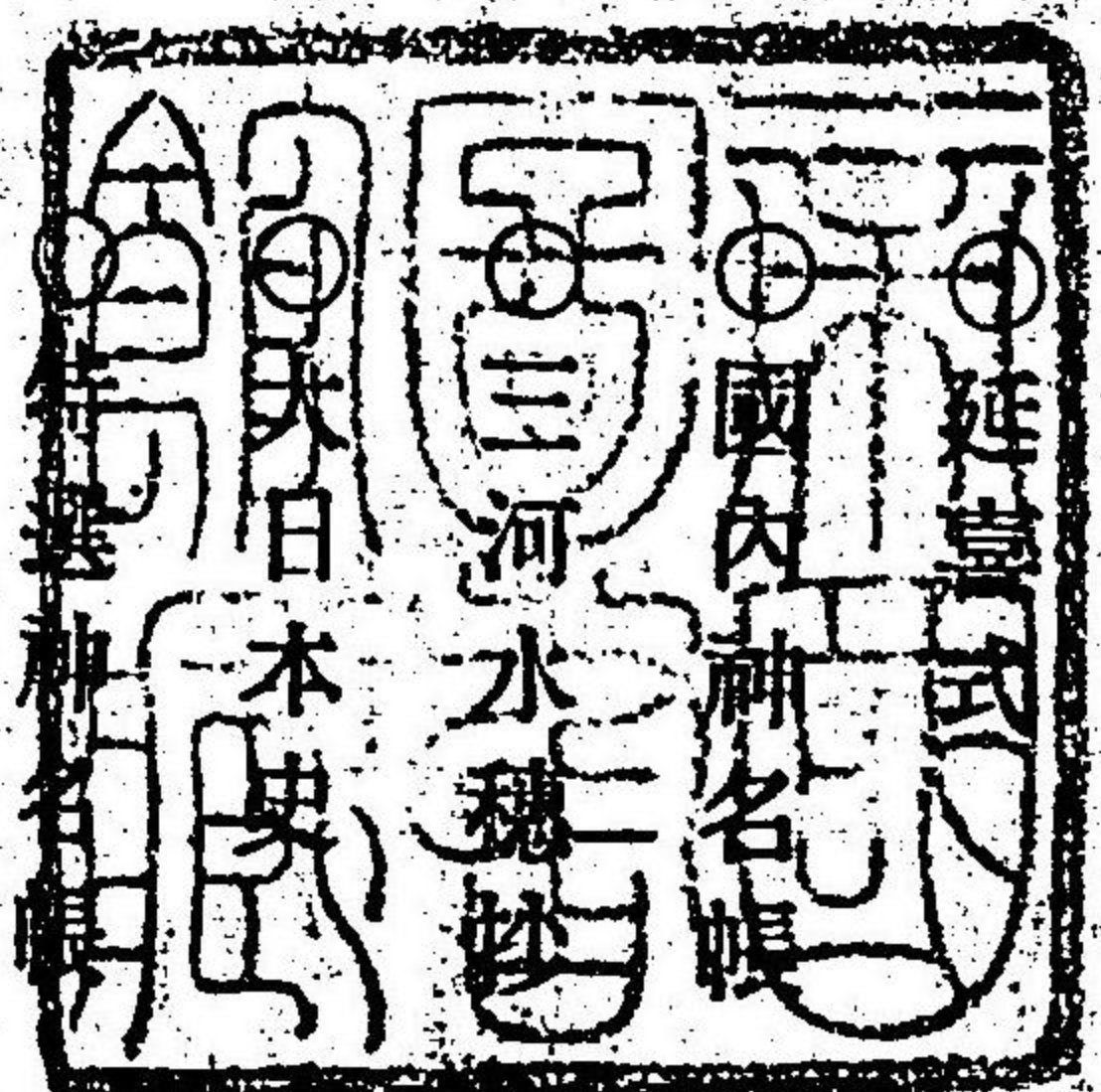
ABB-1155





246-2

和志取神社志引證書目



○參河國官社考集說

○神祇志料

○三河官社廿六座順拜記

○三河國名所圖會



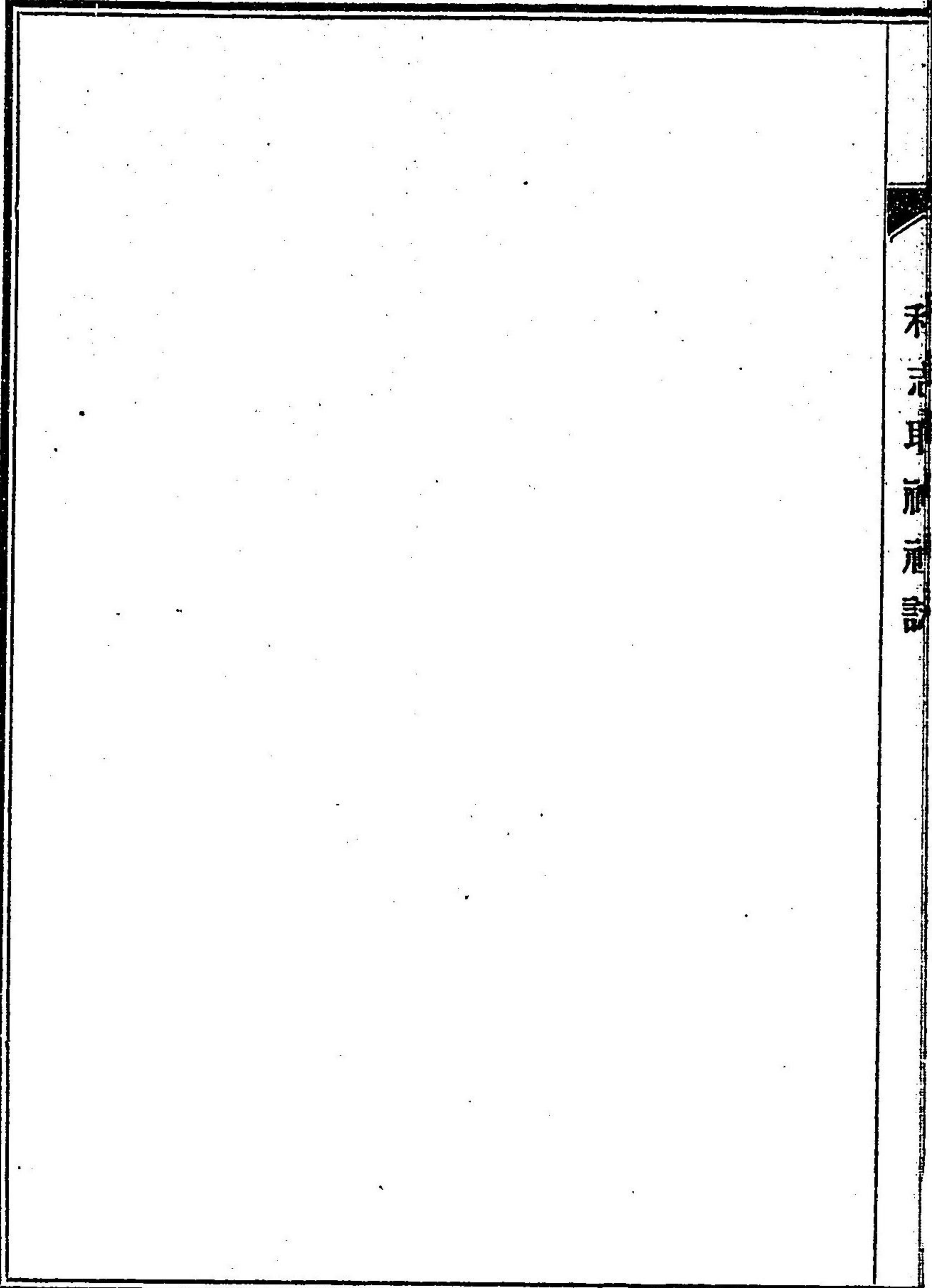
和志取神社志

- 蓬廬雜抄
- 三河雜抄
- 帝國地名大辭典
- 東海道延喜式社祭神記
- 和志取地名考
- 碧海郡誌
- 三河二葉松
- 大日本名所圖錄
- 和志取神社取調書
- 田畑名寄帳

- 三河國百廿五社撰書
- 日本書紀
- 古語拾遺
- 先代舊事本紀
- 新撰姓氏錄
- 日本紀標注
- 忌部神社社傳
- 神社覈錄
- 續日本後紀
- 三代實錄

- 三河志
- 神名帳首書
- 參河堤
- 三河國長谷部氏古跡
- 神社書上寫
- 和志取神社御取調ニ付書上
- 三河國廿六座之内和志取神社御取調ニ付書上
- 檢地帳
- 宇頭村地圖書入
- 豐阿彌長者位牌銘

- 小野正滿長者位牌銘
 - 鰐口銘
 - 村社神明社御由緒調査書
 - 姓氏一覽
 - 新撰姓氏錄考證
 - 釋日本紀
- 以上



和志取神社誌

和志取神社ハ延喜式内ノ舊社ニシテ國史現在ノ官社タリ

天日鷲命ヲ祭ルヲ以テ天神ノ稱アリ蓋三河國碧海郡舊志

貴庄和志取郷柿崎村字和志取ニ鎮座シタマヘルニ因リ和志

取天神ノ號ス神階正五位下ニシテ碧海郡筆頭ノ神社タリ

考證

○延喜式九(神名帳)

參河國廿六座並小

碧海郡六座並小

和志取神社

酒人神社

日長神社

知立神社

比蘇神社

糟目神社

○國內神名帳(參河國)

天神百十五所

正五位下鷺取天神座碧海郡

正五位下小島天神座同郡

正五位下小山天神座碧海郡

正五位下大井天神座同郡

正五位下石村天神座同郡

正五位下江原天神座碧海郡

正五位下櫻本天神座碧海郡

正五位下前庭天神座同郡

正五位下院庭天神座同郡

正五位下國玉天神座同郡

正五位下占部天神座碧海郡

從五位上酒人天神座碧海郡

從五位上比蘇天神座碧海郡

從五位上小河天神座碧海郡

從五位上酒井天神座碧海郡

從五位上槻井天神座同郡

從五位上酒井天神座碧海郡

○水穗抄

舊社 碧海郡

和志探神社天日鷲命祭

酒人神社大山咋命祭

日長神社吾田鹿芦津姬命祭

比蘇神社水産靈命祭

糟目神社彦火火出見命祭

伊麻留神社玉桂屋命祭

小山神社持統帝祭

大井神社稚武玉命祭

石村神社五百流磐村神祭

櫻本神社櫻御年神祭

瀨見神社瀨織津姬命祭

前庄神社事解男命祭

院庄神社青檜彦命祭

國王神社顯國王命祭

高木神社高木命祭
占部神社日良麻呂命祭
地立神社地立姫命祭
小河神社瀬織姫命祭
姫神社豊玉姫命祭
大岡神社青櫛彦命祭
泉田神社白田彦命祭
江原神社水潜尾命祭
小島神社小須須具命祭
堺神社中筒男命祭

槻井神社水象女命祭

三河國二十六座ノ一タル延喜式内和志取神社ハ現今ノ矢作町大字柿崎鎮座ノ和志取神社タルコト左ノ考證ニ據リテ明々昭々タリ

考證

○大日本史二百五十五(神祇志)

和志取神社國內帳作正五位下鷲取天神今在柿崎村社傍有稱和志取地

○特選神名帳

和志取神社柿崎村ナル神社ニツレトリノ字五ヶ所アリ

○參河國官社考集說

政方云海道宇頭村ノ北柿崎村ニ字和志取ト云所アリ其所ニ白山ノ社アリ社ハ一間許ノ小社ニシテ境内ハ除地ニテ古松大樹等アリ尤モ古キ棟札モナク社人モナシ村ノ若者等祭禮ヲ取行フノミナリ可考トイヘリ
(欄外記) 忠順云柿崎村ナル和志取神社マユトニ式社ナルベシコ、ニ字トノミ云ルハワロシ今モ和志取明神ト云リ

○神祇志料十二

和志取神社今柿崎村字和志取ニアリ

○三河官社廿六座順拜記

柿崎村和志取神社へ順拜セリ

○三河國名所圖會

海道宇頭村北柿崎村ニ和志取ト云處アリ其所ニ社アリ云々當郡和志取神社並ニ和名抄ニ舉ル當郡鷺取郷云々
○蓬廬雜抄(參河)

正五位下鷺取天神ハ式内ニテ碧海郡柿崎村和志取社是也

○三河雜抄

和志取神社 柿崎村

國內神名帳云正五位下鷲取天神(式内)座碧海郡
和名類聚鈔云鷲取(和之止利)

景行天皇皇子氣入彥命捕逆臣於此地故號鷲取乎(延
經首書)

新撰姓氏錄上左京皇別條曰御使朝臣出自謚景行皇子
氣入彥命之後也譽田天皇御世御室雜使天壬生等逋逃
不仕天皇遣使尋求並不復命於是氣入彥命奉詔括追於
參河國捕獲參來天皇嘉令使者賜姓御使連也續日本紀
合

同書又曰御立史氣入彥命後也持統天皇御代依居參州

(古寫本參河國作)青海郡御立地賜御立史姓日本紀漏

○帝國地名大辭典

和志取神社愛知縣三河國碧海郡志貴村大宇柿崎に在村
社天日鷲命を祭延喜式内の舊社なり

○東海道延喜式社祭神記

和志取神社柿崎村座

○和志取地名考

三河國碧海郡宇頭村ノ西北ニ柿崎村アリ此邊ノ地區ハ
往古鷲取ノ郷ト唱ヘ中古志貴ノ庄ト稱ス此ノ鷲取郷ニ
和志取神社アリ延喜式及國內神名帳ニ載セラレタル大

社ニシテ崇祭ノ隆重ナリシ事今尙ホ追想スベキナリ

○碧海郡誌(柿崎村)

村名 義不詳○按ニ本村ノ東古者海潮通ズルノ地ナルニ似タリ牡蠣ヲ捕シ地ニシテ名ケレテ後ニ柿ノ字ニ易シ者歟

統領 寛延以前岡崎城主ノ領寛延元年戊申ヨリ水野主膳采邑ニシテ明治度ニ至ル
郷庄 志貴庄鶯取郷

疆域 南北八町十三間東西八町廿三間○宇頭村舊時尾崎村ト訴訟中ノ書ニ據ルトキハ尾崎ハ本村ノ支郷ナ

ルベシ而シテ本村ハ宇頭ノ支郷ナルベシ之ヲ總ルニ古ハ宇頭柿崎尾崎皆同村ナルガ如シ

距離 縣廳七里廿七町郡衙二里六町

○碧海郡誌(柿崎村)

神祠○村社和志取神社 官有地祭神 天日鷲命

疆域八畝○創祀年歴不詳

拜殿東北隅ノ老松周圍二丈其他三隅ノ松亦之ニ亞グノ老龍鱗也蓋想フニ拜殿ノ地元是内殿也故ニ四隅ニ松ヲ植テ位置ヲ成ス其他古松多シ標石有リ題シテ云三河國廿六座之一和志取神社一説ニ文政年間ノ所建ト云然ル

ニ明治七年五月縣廳ヨリ令スルコト如左
西本郷村長谷部神社今般教部省之指令ニヨリ式内廿六
座之内和志取神社確定候ニ付此旨相達候事
但地方標石改訂可致候事
村民驚キ舊來ノ如ク和志取神社ト稱シタキノ意ヲ請願
ス乃同年六月指令如左
西本郷村長谷部神社ノ儀ハ神璽ヲ初古塚等ニ至マデ古
來確証ト可相成廉々不少候ニ付教部省依指令式内和志
取神社ニ致確定候事ニ付其村和志取神社號改訂ニハ不
及候得共標石面式社之文字削減候様速ニ可取計候事

於是村民七月更ニ願書ヲ具申ス

其畧ニ曰西本郷村神璽其他古來確証不鮮ト教ヲ蒙ル
然ラバ其古塚ノ原由ヲ聽キ及其諸証悉皆熟覽スルコ
トヲ許サレシコトヲ冀フ

又曰弊村田畑ノ字ニ驚取ノ確証有リ而彼社ハ諸証有
ルヲ以式内神社爲ルコトヲ得弊村ノ社ハ確証有ルモ
式社ノ字劇削ヲ命セラル兩社神號ヲ同クシテ此大異
有ルハ抑何ノ意ゾヤ敢垂諭ヲ仰ク

又曰長谷部神社古者瀬部大明神ト稱ス文政年間本郷
大明神ト更ム明治三年庚午ニハ長谷部神社ト更ム今

年又式内和志取神社ト更ム更ムルコト頻々如此ハ和志取神社ニ非ルニ似タリ敢テ高諭ヲ望ム

於是同年八月廿日村民検査官ニ從ヒ西本郷村ニ適テ諸証ヲ觀ル内殿帳中ノ神璽杉板(長七寸小鳥六ツ刻ス)及葦弁ノ蠹蝕素扇古塚出來記等皆和志取神號ノ徴トスルニ足ル者無シト看做スヲ以其義ヲ細書シ廿三日重テ具申ス

翌八年二月指令二章

書面之趣ハ今般教部省ヨリ達之次第有之長谷部神社ト復稱式内未定之神社ト可心得旨西本郷村へ相達候事

其村鎮座和志取神社之儀今般教部省ヨリ達之趣有之ニ付式内未定之神社ト可相心得旨更ニ相達候事

抑近年高木村下中島村各某神祠ヲ以式内日長神社也ト競ヒ宮地村ハ渡刈村糟目神社ト式内ヲ競ヒ西本郷ハ本村和志取神社ト式内ヲ競フ曩昔此爭無リシニ獨近年ニ至テ紛紜タルハ何ゾヤ蓋從來各村無丁字ノ氏其神祠神號深ク講究スルニ意無ク徒古來ノ傳フル所ニ信セテ襲稱シ何レノ神祠是式内タルコトヲ知ラザル者多カリシ也本村ノ和志取神社モ曩ニハ白山社ト稱セシコト近村老農ノ能知ル所也然レドモ是深ク罪ムベキニ非應仁喪

亂ノ後萬民我躬スヲ容レラレズ何ゾ神號ヲ講ズルニ違
アラシヤ西本郷ノ更ムルコト三四回ニ及ブ者ハ同日ノ
論ニ非然ルニ近年參河國官社私考一書出デ、後該書載
スル所ノ村中ノ民始テ愕然トシテ吾神祠或ハ是式内社
ナラント顧眄スルノ心ヲ生ゼリ官社私考云
和志取神社(志貴庄鷺塚村天神社歟或云本郷村云々)
日長神社(或云吉良庄中島村明神社歟云々)
糟目神社(或云重原庄上渡刈村墟指社也又云青海庄宮
地村犬頭社ト未詳)
於是本郷中島宮地某式内ヲ唱ル遲速有ト雖各競テ式内

社タラシコトヲ要ス此レ争競ノ原因也(事ニ敏ナル者ハ
先ヅ窃ニ考証スベキ書及物品ヲ巧ニ偽造シ以テ時ヲ俟
ン者尠カラズ故ニ争競ノ日ニ及テ有司検査スレドモ玉
石容易ニ精〇シ難キ者アルニ至レリ)本村ノ如キハ官社
私考和志取神社ノ條下ニ漏ル者ニシテ其之ヲ唱フルノ
情他祠ト異也治世ノ久キ民智漸ク開ケ或ハ國學者流ヲ
信シ始テ舊來襲稱ノ誤謬ヲ醒悟シ標石ヲ建テタル者ニ
シテ其情ヲ察スレバ恕スベキ者有リ本村藏〇ノ百廿六
年前寶曆四年甲戌ノ田畠名寄牒ハ全然後人ノ作爲無キ
者ニシテ古ヲ徵スルニ足レリ(此牒ハ元祿二年己巳ノ古

牒ヲ六十六年ノ後ニ及テ村吏集合改寫シ牒尾ニ連署セ
シ者也元祿ヨリ寶曆ノ頃マデ村々式内社ノ争競ハナカ
リシ者ニテ牒中ニモ村民無我無心ニシテ錄載セシ者ナ
レバ以テ証トスルニ足レリ名寄牒ニ字ヲ取ト記スル
者五所○馬場崎四所○宮ノ根十六所○宮ノ西一所○宮
ノ北二所○神田廿四所ヲ載タリ(鶯取トハ鶯取社ノ神田
ト云ノ意明也然ラズンバ何ゾ鶯取郷中ニ於テ又更ニ鶯
取ト名ル田有ルノ理有ンヤ別ニ神田ト稱スル田有ルハ
熊野社ト同○ノ名歟然レバ此神祠ヲ以真ノ和志取社ト
スベシ

修誌氏曰西本郷村字和志山ノ側ニ一小祠有リ識者是或
ハ和志取社ナラント云(官社私考和志取神社ノ下ニ或云
本郷村ト記セルモ此和志山ノ小祠ノ事也豈本郷村長谷
部神社ヲ指示スルナラン哉(取難シ(西本郷)
又自考ルニ宇頭村神明社或ハ和志取社ナラシ歟ト思惟
スルコト有リ然レドモ其舊祠地字御立ト云テ取ルノ外
確証無シ所以舍彼而取此也(宇頭村)
○碧海郡誌(柿崎村)

追書

和志取ノ名義重代記ノ説ニ據ルトキハ復論無シ然レド

モ今ニ及テ此記ノ外ニ重テ思フコト有リ驚取トハ驚照ト云コトナルベシ其例ハ古事記神代卷ニ天菩比命之子比良鳥命ト有テ傳ニ(傳ノ七ノ卷六十六號)天夷(比良ト比奈トハ横ニ通ノ音也故ニ比良ノ比奈ニ同シ)鳥トモ天日照トモ諸書ニ見エテ名ノ意ハ邊鄙ヲ平給ヒシ功ヲ美テ鄙照ト稱シナルベシト云リ此ニ由テ按ヘバ舊此村宇頭村尾崎村宇頭茶屋村邊總テ驚ノ郷ト稱ヒ(蓮華寺山ニ字和志山ト云處有リ和志取山トハ云ハズ字ニハ古ヨリ傳ハリ來シ者多シサレバ古ハ和志取郷ナラズレテ和志郷ニテツ有ケン)之ヲ管理シ官人亂テ鎮メ仁政ヲ施シ人

民其德ニ懷キ之ヲ稱ヘテ驚照ト云レテ其亂ヲ鎮メシ中ニ此官人大驚ト云賊ヲ捕ラシメシコトナドモ有レテ以其事遂ニ驚照ノ美稱ニ混レ入り是ヨリ驚照トモ驚取トモ美稱レニモ有ベシ又是ヨリ郷名ヲモ驚取郷トモ云レナルベシ抑官人ヲ神トシ祀ルト云コトハ重事也一賊ヲ捕シ功ノミヲ稱ニハ非レテ仁政ノ恩ニ因リ德ヲ慕フノ餘ニ出タル美稱ナルベシ延喜式ニモ限ラズ古事記モ萬葉集モ皆借字ヲ以書レコト多ク鳥モ取モ亦借字ナレバ字ニ泥ム可ニ非重テ之ヲ記シテ後人ノ參考ニ備フ

○三河二葉松一

碧海郡六座並小

一和志取神社 在柿崎村

○大日本名所圖錄愛知縣三河國(柿崎村)ハ往古鷲取郷ト唱
ヘ中古志貴庄ト稱ス此柿崎村在和志取神社

○和志取神社取調書

三河國碧海郡志貴村大字柿崎字和志取三十五番鎮座

村社和志取神社 創立年號不詳

祭神不詳 口碑ニ傳フ天日鷲命ナリト亦大碓命ナリ
トモ云フ

事由

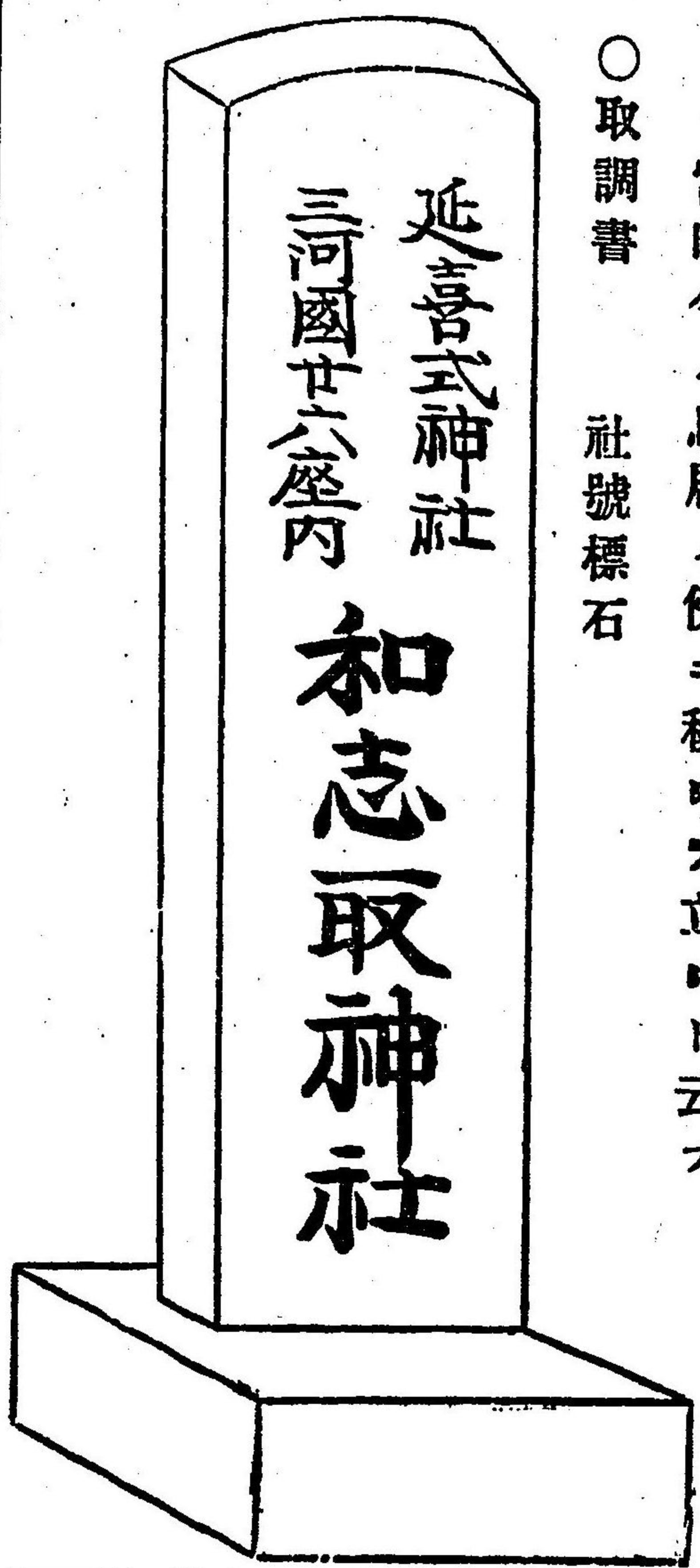
社傳ニ云三河國延喜式廿六座之一ナリト云又神祇志料
ニ和志取神社今柿崎村字和志取ニアリ寶曆四年田畑名
寄帳重原藩取調書トアリ明治六年十一月迄式社廿六座
ノ一和志取神社柿崎村一般崇敬セシ所西本郷村ヨリ明
治七年五月和志取神社ノ考證ヲ以同村ヘ確定ノ出願ア
リシヨリ一時同村長谷部神社ヘ和志取神社ヲ確定ナリ
シモ明治八年二月十五日長谷部神社ト復稱シ爾來未定
ノ者ニナレリ但シ詳細ノ書類ハ略ス
境内ニ老樹數幹繁茂シ又双松樹ノ枯株ヲ存シ周圍二丈
餘ナリ



右石之丈三尺中文字ノ處二尺一寸中之幅七寸臺石巾二尺厚サ七寸

但レ年月記名ナレ此標石文政頃迄ハ奥宮ノ前ニアリシヲ當時今ノ鳥居ノ傍ニ移レテ立レト云フ

○取調書 社號標石



右石之丈四尺八寸幅八寸五分四方臺石一尺五寸五分四方西脇裏ニ千卷舎幹事深見篤慶建慶應丙寅年夏但レ當時ノ祠官深見篤慶ノ寄附ニシテ神社ヨリ距離七丁柿崎地内東海道傍ニアリ

○額面題字

和志取神社

内務大臣山縣有朋書(附)

○和志取地名考

傳へ聞ク此柿崎村ハ往昔ハ神前村ト唱ヘシトカヤ今ニ村社アリ和志取神社ト稱ス其ノ境域ハ僅ニ五畝拾三步

ノ無稅地ノミ然トモ其ノ鳥居ノ左右ニハ巨大ノ雙松樹枯株ヲ存シ周圍凡ニ丈餘ニシテ千年ノ古根盤屈セリ又喬松雲ヲ排シ老幹雨ヲ溜ルモノ比々相望ム下ニ一基ノ古標石アリ正面ニ和志取神社ト題シ肩書ニ三河國二十六座ノ一トアリ年月記名ナク字畫漫漶頗ル古物ニシテ年所詳ナラズ此物文政頃迄ハ奥宮ノ前ニアリシテ當時今ノ鳥居ノ傍ニ移レテ立テト云フ此際ニ來リテ低回願望スレバ人ナレテ坐ニ古代ノ事ヲ想起シテ止マザラレム嗚呼神社境域ノ漸々縮小ニ至リシハ年所ヲ經ルノ久キ土民ノ私墾ヲ貪リテ侵蝕シ社地ノ田畝ニ變ジタル

モノナリ現ニ社地ノ傍ナル地名ニ和志取ト稱スル畑五
箇所合セテ八畝二十一歩宮ノ根ト稱スル畑四段九畝六
歩宮西ト稱スル畑三畝一步宮北ト稱スル畑一段一畝七
歩神田ト稱スル一町一段十八歩馬場先ト稱スル八畝四
歩ナリ是レ元祿時代ノ田畠名寄帳ニ載セタルヲ寶曆
四年二月二日柿崎村ノ名主伴右衛門組頭利兵衛同半十
等ノ名判ヲ以テ證明シタル紙數四拾五枚表紙付ノ古帳
簿ニ明徴ス今此田畑ヲ以テ社境ニ算入スレバ境内凡二
町歩餘ニシテ式内官社ノ神地タルニ耻ザルベシ况ヤ一
町北ニ下リ坂ト稱スル處アリ又一町南ニ下リ辻ト稱ス

ル處アリ此處ヨリ下馬セン事ヲ口碑ニ傳フ斯ノ如ク地
名ノ歴々トシテ存在セルヲ見レバ鷺取郷ノアリシ式社
ノ和志取神社ハ果シテ此地タル事推シテ知ラルベキナ
リ

○田畑名寄セ帳

下貳畝廿二ト

馬場崎

中ノ壹反十五ト

分米貳斗六升

反數ノ七反三畝十七ト

分米九石八斗壹升六合

畑方

中八畝三ト	中	八	畝	三	ト	藪ノ西
三畝五ト	三	畝	五	ト		わゝ取
中壹畝十八ト	中	壹	畝	十	八	宮ノ禰
久太郎入	久	太	郎	入		宮禰東
下貳畝五ト	下	貳	畝	五	ト	同所
下三畝十五ト	下	三	畝	十	五	宮禰東
下四畝十八ト	下	四	畝	十	八	長合
下壹畝壹ト	下	壹	畝	壹	ト	同辻
下貳畝十二ト	下	貳	畝	十	二	五斗瓶子
下三畝十五ト	下	三	畝	十	五	山ノ中

○田畑名寄セ帳

下壹畝ト山ノ内改	下	壹	畝	ト	山ノ内改	いのこ						
下六ト	下	六	ト			茶敷						
上五畝廿五ト	上	五	畝	廿	五	居屋敷						
分米七斗五升八合三勺貳才	分	米	七	斗	五	升	八	合	三	勺	貳	才
中ノ九畝廿二ト	中	ノ	九	畝	廿	二						
分米壹石六斗七合	分	米	壹	石	六	斗	七	合				
下ノ貳反壹畝十七ト	下	ノ	貳	反	壹	畝	十	七	ト			
分米壹石九斗四升三合	分	米	壹	石	九	斗	四	升	三	合		
反數ノ三反七畝三ト	反	數	ノ	三	反	七	畝	三	ト			

分米ノ三石七斗六升六合三勺二才

田畑合拾石五斗七升八合三勺

外貳合御藏敷

田方

中壹反貳畝十七ト

中貳畝廿七ト

中三畝廿九ト五厘

上九畝十九ト

上貳畝廿八ト

中壹反六畝十二ト

勘七

山崎下

大なかれ

三反田

三ツわけ

あせはな

むかい

下壹畝十二ト

下五畝ト

○田畑名寄セ帳

残り壹斗七升六合六勺七才

反數ノ貳反六畝十六ト

畑方

下壹畝六ト作次郎

下壹畝廿六ト

下廿ト

下貳歩五厘

かみ田

中尾口

宮ノ禰

長合道くろ

長合南

茶敷

下廿九ト

わゝ取

下廿ト

長合

中壹畝三ト

やふノ西

中廿一ト

やふノ西

上 三畝十四トノ内清右衛門入長合共ニ

壹畝九ト

居屋敷

分米壹斗六升九合

田方

下四畝廿一ト彌太郎

宮ノ北

下三畝三ト

宮ノ西

○田畑名寄セ帳

三州碧海郡

柿崎村

庄屋伴右衛門判

組頭利兵衛判

同半十判

寶曆四甲戌年二月廿日

元祿貳年己年ノ出入有之候ニ付寶曆四年相改名寄セ仕候惣百姓庄屋組頭立合○○入如此ニ御座候已上

○和志取地名考

一右名寄帳ノ外他ニ古書類ノ現存スルモノ如何ナ村民ニ尋問セシニ先年帳簿秘藏ノ家屋焼失ニ係リ悉皆烏有トナレリト偶然此名寄帳ノ他家ニアリテ天災ヲ免レ即チ今日ノ考証ニ供スルヲ得ルハ是亦神明ノ威靈然ラシムルモノカト云フ

柿崎鎮座ノ和志取神社祭神ハ天日鷲命ナリ其考證左ノ如シ

考 證

○參河國官社考集說
和志取神社

政方云海道宇頭村ノ北柿崎村ニ字和志取トイフ所アリ云々

忠順云柿崎村ナル和志取神社マコトニ式社ナルベシコトニ字トノミ云ルハワロシ今モ和志取神社ト云リ

○三河國百廿五社撰書

和志取神社 天日鷲命ヲ祭ル

○三河水穗抄

鷲取神社 天日鷲命ヲ祭ル

○蓬廬雜抄

正五位下鷲取天神 式内坐碧海郡

○國內神名帳(三河國)

正五位下驚取天神 式內坐碧海郡

○帝國地名大辭典(わ)和志取神社

愛知縣三河國碧海郡志貴村大字柿崎に在り村社天日驚命

○三河水穗抄

舊社 碧海郡

和志採神社 天日驚命祭

○和志取神社 調書

口碑ニ傳フ天日驚命ナリ

天日驚命ノ御傳記ニ係ル考證ハ左ノ如シ
考 證

○日本書紀一(神代卷上一書)

至於日神閉居于天石窟也諸神遣中臣連遠祖與台產靈兒
天兒屋命而使祈焉於是天兒屋命掘天香山之真坂木而上
枝懸以鏡作遠祖天拔戸兒已凝戸邊所作八咫鏡中枝懸以
玉作遠祖伊弉諾尊兒天明玉所作八坂瓊之曲玉下枝懸以
粟國忌部遠祖天日驚所作木綿乃使忌部首遠祖太王命執
取而廣厚稱祈啓矣
○古語拾遺

天地剖判之初天中所生之神名曰天御中主神次高皇產靈神次神皇產靈神其高皇產靈神所生之女名曰栲幡千千姬命其男名曰天忍日命又男名曰天太玉命太玉命所率神名曰天日鷲命阿波國忌部祖也手置帆負命彥狹知命櫛明玉命天目一箇命

○古語拾遺

令天日鷲神以津咋見神殖穀木種以作白和幣

○古語拾遺

天日鷲命之孫造木綿及麻並織布□仍令天富命率日鷲命之孫求肥饒地遣阿波國殖穀麻種其裔今在彼國當大嘗

之年貢木綿麻布及種種物所以郡名爲麻殖之緣也天富命更求沃壤分阿波齋部率往東土播殖麻穀好麻所生故謂之總國穀木所生故謂之結城郡阿波忌部所居便名安房郡天富命即於其地立太玉命社今謂之安房社故其神戶有齋部氏

○先代舊事本紀

復令粟忌部祖天日鷲神造木綿者

○新撰姓氏錄

多米連

神魂命五世孫天日和志命之後也

○先代舊事本紀(國造本紀)

伊勢國造

檀原朝以天降天牟久怒命孫天日鷲命勅定賜國造

○日本紀標注三

日鷲神は高皇產靈神の御子にして太玉命と御兄弟に坐り

○延喜式三(臨時祭)

名神祭二百八十五座云々阿波國天日鷲神社一座

○延喜式十(神名帳)

忌部神社名神大月次新嘗 或號麻殖神或號天日鷲神

○忌部神社社傳

祭神天日鷲命

○神社覈錄下

阿波國五十座大三座小四十七座麻殖郡八座大一座小七座

忌部郷山崎村に在す(神社帳)

○神社覈錄下(頭注)

忌部神社

所在德島縣阿波國德島市富田浦町二軒屋町

○神社覈錄下(頭注)

忌部神社

明治四年五月十四日被列於國幣中社

○續日本後紀

嘉祥二年四月乙酉奉授阿波國天日鷲神從五位下

○三代實錄

貞觀元年正月廿七日甲申奉授阿波國從五位下忌部天日鷲神從五位上

○三代實錄

元慶二年四月十四日己卯授阿波國從五位上天日鷲神正五位下

○三代實錄

元慶七年十二月廿八日庚申阿波國正五位上天日鷲神授從四位下

和志取神社ヲ碧海郡ノ鎮座トシテ其舊官社タルコトヲ証明スベキ考證ハ左ノ如シ

考證

○延喜式九(神名帳)

三河國碧海郡鷲取神社

○國內神名帳(三河國)

正五位下鷲取天神坐碧海郡

○伊呂波字類抄三

和志取神社三河國碧海郡六座內

○三河志

碧海郡並小六座

和志取神社

和志取神社鎮座ノ何地ナルカヲ確定セズ五里霧中ノ間ニ

沈淪彷徨シタル論說考證ハ左ノ如シ

考證

○神名帳首書

和志取神社

景行天皇皇子氣入彥命捕逆臣於此地故號鷲取乎

○參河堤一

和志取神社

倭名抄云鷲取(和之止利)

按氣入彥命捕逆臣於此地故號鷲取乎姓氏錄云御立史氣入彥命後也持統天皇御代依居三河國青海郡御立地賜御立史姓又云御使朝臣出自謚景行皇子氣入彥命之後也譽田天皇御代御室雜使大壬生等遁逃不在天皇遣使尋求不復命於是氣入彥命奉詔括追於參河國捕獲參來天皇嘉令使者賜姓御使連也以上延經首書抄出舊事

紀云佐伯郡(參河御使連等祖與姓氏錄異)御立村在加茂郡從狹投山去東南三里(今御館云以上式内)

○參河國官社考集說

按ニ此氣入彦命ハ日本紀又舊事紀ニ五十狹城入彦命トアルト同人ニハマシマサメカ可考舊事紀云三河ノ長谷部祖トアリ

三好本云御立村在加茂郡從狹投山去東南三里(今云御館)高三百八十六石九斗二升又曰氣入彦命

舊事紀(七ノ卅四丁)日本武尊御子佐伯命(參川御使連等祖)本多本云賀茂郡御館村ニアリ村支配庄屋喜之右衛門正

殿四尺五寸ノ覆アリ拜殿二間三間石鳥居アリ(牛野村へ九丁)予天保十年八月御館ナル産土神ニ參詣ヅルニ正殿ハ三座相殿ニテ神明社ト稱シ上神明下神明飛彈森明神三座也例祭ハ八月十五日社地ヲ飛彈森ト稱スノミニテ古キコトハ知レズト其庄屋幸右衛門イヘリ

梁本云鷺村天滿天神也ト云非ナラム又云鷺塚新田可尋歟

予天保十年九月鷺塚村ノ産土神天神社ニ參詣ヅルニ其社地三方ハ田ニテ(舊クハ入海ナルベシ)築出シタル岡ニテ社ハ其高極ノ北端ノ所ニアリテ本社四尺許外屋アリ

拜殿二間三間石ノ鳥居アリ其社人清水清七ト云テ訪ヒ
テ問聞ルニ祭ハ六月十五日也古キコトハ絶エテ知レズ
ト云ヘリ

(欄外記)永見敬孝曰鶯塚ノ枝村ニ神在ト云アルハ即神ノ
マシクシ所ナシカ云ナルベシサテ鶯塚村ノ方ニ
鶯取松ト云大樹一株アリ此所カタガタヨシアリト云リ
(明治七年コノ大松風ナキ日折レタリ)

伊藤由規云鶯塚村ノ邊ニ神在村ト云アリテ天神社アリ
ワシ塚ノハ其ヲ遷セルナリト云リ又後ニ消息レテ云枝
村ナリワシ塚ノ方古シトイヘリ

義方本云本郷村ニアリ(西町守山氏ノ説)

○神社叢録上

和志取神社

和志取ハ和之止利ト訓ベシ和名抄(郷名部鶯取(仮字上
の如し)祭神所在等詳ならず私考略に鶯塚村天神社乎
或云本郷 又賀茂郡御館村に在す末詳と云リ

和志取神社鎮座ノ地ノ柿崎ナルコトハ論ナシト雖モ其考
證ノ時代ニ於テ材料蒐集ノ不便ナルト考證シタル學者ノ
謬見ナルトハ徒ニ人ヲシテ一方ニハ惑ハシメ又一方ニハ
非望ノ念ヲ懷カシメタリ是ニ於テカ或ハ西本郷ナリトシ

或ハ鶯塚ナリトシ甚シキハ高取ノ如キヌラ尙和志取神社
ヲ作ラムトス其失當ハ左ノ考證論說ヲ以テ知ルベキナリ
考 證 西本郷

○參河國官社考集說

渡邊政香神主云本郷村(此村舊クハ長谷部ト云蓮華寺ノ
傍ニ一間許ノ小社アリ三圍許ノ古松三四株アリテ舊地
ナリコレヲ鶯取天神ト云ト其村人云リ
由規云矢作ノ南西近邊本郷村氏神ヲ古クハ瀬邊大明神
ト云ルヲ今ハ本郷大明神ト云其末社十六社アリ其内ニ
ワシトリノ社ト云アリ又ハ天王ト稱テ六月十五日例祭

也其社ヨリ二町許隔リテワシトリ塚ト云塚アリ今ハ村
長其生タルカヤヲ刈取故ニ庄屋塚トイフト云リ
天保八年二月予其地ニ至リテ其村ニ人ニアナクリ問ヒ
テ其社ニ詣テツルニ本郷大明神ノ西五六町許ニ蓮華寺
ト云禪寺アリソコヨリ北ノ方一町許ニ其領主ノ陳屋ア
リ其後ノ少シ小高キ處ニ天王社アリ社ハ一間四方許ノ
小祠ニテ古松二本アリ彼庄屋塚ト云モアリサレド式社
トハ思ホエザル社地也(サテ瀬邊ノ森ノ社ノ額ニ正一位
本郷大明神ト云ル白川神祇伯雅壽王ノカキ玉ヘルアリ)
○三河國長谷部氏古跡

舊事紀云景行天皇皇子五十狹城入彦命三河長谷部直祖トアリ

按ニ同書ニ不知來入彦命マタ姓氏錄ニ氣入彦命トアルモ皆同人ナルベシ兩御名トモニ古事記日本紀トモニ見エザレバナリ

新撰姓氏錄云御使朝臣出自謚景行皇子氣入彦命之後也譽田天皇謚應神御世御室雜使大壬生等遁逃不仕天皇遣使尋求竝不復命於是氣入彦命奉詔括追於參河國捕獲參來天皇嘉令使者賜姓御使連也續日本紀合

延喜神名式ニ驚取神社アリ度會延經ノ首書ニ景行天皇

皇子氣入彦命捕逆臣於此地故號驚取乎トアリ

古事記ニ景行天皇ノ皇子ノ御事ヲ自余七十七王者悉別賜國國之國造亦和氣及稻置縣主也トアレバ此國ナル長谷氏ハ其皇子等ノ御末裔ナルコト明ケクナム

本居大人ノ古事記傳ニモ和名抄ナル谷部郷ノコトヲ續紀ニモ此郡ニ此氏人見エタレバ此所ヨリ出タル姓ニモヤアラムト云ハレタリ

○和志取神社取調帳

棟札

元祿十七年

庄屋 杉浦安兵衛

奉掛造瀨部大明神西本鄉村

甲申九月吉祥日

土屋庄左衛門

葺師 桑原又兵衛

○和志取神社取調帳

西本鄉村神社

一和志取郷塚ト云 二畝二步無稅地

○神社書上寫 西本鄉村

一祭神并勸請年記附社號

長谷部大明神

平姓長谷部系圖

長谷部本國近江志賀住長谷部權之頭二男長谷部杵之允
平信次白鳳元壬申年大友皇子ニ隨故アリテ三河國碧海
郡ニ流落シテ守護職ト相定依テ其村々ヲ長谷部郷ト云
同十三甲申年九月十二日長谷部大明神ト奉崇則長谷部
之社也

一神位 長谷部大明神改稱正一位本郷大明神合殿三
座八幡宮長谷部白山宮但神位白川殿ヨリ副翰寫

今般依懇願

奉勸遷

正一位本郷大明神靈奉遷於其清地也神靈到日宜祓除其

社永世奉安鎮之祭祀無怠慢於令專信者村中繁榮氏子永
久幸有守護者也

朱印

神祇官統領神祇伯王殿

文政十三年八月十日

公文所 印

同額字副翰之寫

三州碧海郡本郷村

鎮守

正一位本郷大明神額寫

右今度依願

神祇伯雅壽王被爲染筆之條永世無闕如可尊信者也仍副翰
如件

白川殿

文政十三年八月

公文所朱印

本郷村氏子中へ

●編者云 國內神名帳に記す所碧海郡には大明神二所明
神四所天神十七所此中に本郷大明神また長谷部大明神
などあることなり次に正一位は碧海郡の知立大明神と

賀茂郡の猿投大明神と八名郡の石巻大明神と以上三所のみにして三河の國中に正一位の神階ある神社なきは帳の證する所なり

○碧海郡誌(西本郷村)

村落 古村也創起不詳

村名 本郷ハ舊村名ニ非本郷の西別郷村別所村アリ皆本郷ヨリ支派タルノ名ニシテ其別郷別所ヨリ之ヲ本郷ト稱セシナリ故ニ私稱ニシテ公スベキノ名ニ非只私稱ノ久キ漸々村名ノ若ク成リレモノニシテ舊名ハ長谷部郷ナリ

○碧海郡誌(西本郷村)

郷庄 枚田庄長谷部郷

○碧海郡(西本郷村)

神祠 村社 式内未定和志取神社祭神氣入彦命○別所村舊記ニ此村社ヲ蟬神社ト書セリ本祠所藏ノ棟牒ニ瀨部明神元祿十七年ト記セリ(蓋蟬ト瀨部ト國音相通ズ同號也)又新堀村安永中ノ地圖ニモ西本郷ノ部ニ神祠ヲ畫テ瀨部ト書セリ然レバ蓋昔瀨部明神又蟬神社ト號セリ本祠ノ扁額ニ云正一位本郷大明神(欵云神祇伯雅壽王謹書)又隣村父老ノ説ニ曰瀨部神社ノ楨文政

年間新製ス題シテ正一位本郷大明神ト云ト然レハ五
十餘年前神號ヲ更シタリ明治三年庚午長谷部神社ト
復稱ス(延喜式ニ諸國郡里等名並ニ用二字ト有リ因テ
長谷部ノ長ヲ省キ谷部ト書テハセト訓ミシテ後ニ
自然訓ミモ亦セト成リシヨリ又字ヲモ瀬部又ハ蟬
トモ書シナリ故ニ長谷部ハ即復稱アリ)明治七年本村
ヨリ本祠ノ事ニ於テ官ニ具申スルモノ有リ乃五月教
部省ノ指令ニ因テ和志取神社ト號シ式内廿六座ノ一
ニ入ル翌年二月教部省再議ノ指令ニ因テ長谷部神社
ト復稱シ式内未定ノ社ト爲ル明治十二年一月村民衆

議シテ縣廳ニ上願ス曰

式内神社御調査濟迄未定式社和志取稱號許可被下
度云々

三月縣廳本省ノ指令ニ因テ令シテ曰

書面社號改稱之儀聞届候事

櫻井村ニ長谷部氏多シ中ニ一老翁アリ祖先ノ傳說ヲ
陳テ曰昔在大友天皇瀬田ノ軍利アラズ時ニ長谷部連
皇軍中ニ在リ逃レテ浪速ヨリ船ニ上リ碧海郡ニ着キ
(今ノ蓮花寺山ノ邊ト云)本村ニ留ル後世村民之ヲ祭ル
長谷部神社是也ト且謂テ曰吾曹ノ祖先皆本郷村ヨリ

櫻井村ニ徙セリ皆長谷部神ノ後裔也方今藩衍シテ殆
 四十戸ニ及ブト云〇一説曰近江滋賀人長谷權頭二男
 木工允平信次大友天皇ニ侍御ス皇軍敗レテ後碧海郡
 ニ牢落ス後守護職トナル其所轄ノ地ヲ長谷ト云長谷
 部神ハ即此人ヲ祭ルナリト此説必誤有ン白鳳中未平
 ノ姓有ヘカラズ守護職ハ殊ニ後世ノ名ナリ是年歴ニ
 於テ必錯誤アラシク今二説ヲ合セテ考ルニ蓋長谷部連
 本村ニ潜匿シ後世ニ及テ子孫木工允信次守護職トナ
 リ於是ソノ祖連ヲ祭テ廟ヲ建テシニハ非ヤ
 員外津島社村ノ西北ニ字和志山アリ(寺アリ蓮華寺ト

云因テ又蓮華寺山ト稱ス)山ニ和志取塚ト稱スル地ヲ
 リ老松鬱蒼タリ津島社茲ニ在リ官社私考ニ和志取神
 社ノ注ニ社ノ在所ヲ記シテ曰志貴庄鶯塚村天神社乎
 或云本郷村云々ト記セリ按ニ本郷村ノ社トハ即此津
 島社ヲ指シテ云シ也(此官社私考ニ式社某社ハ或ハ此
 社歟又曰彼社ニハ非ヤト書シハ固ヨリ想像ノ説ナリ
 然ルヲ所在ノ村民之ヲ讀テ我村社即式内某神社ナリ
 ト妄念ヲ生シ是ヨリ處々ニ葛藤ヲ起セリ此津島社土
 人ノ説ニ益ニ本村ニ長左衛門ト云者アリ此祠ヲ奉祀
 ス祠久ク頽廢シ扉空ク開キ神主ナキコトヲ傷ム而シ

ヲ長左常ニ牛頭天王ヲ崇信ス因テ尾張津島ヨリ神符ヲ請シ來テ焉ニ祭ル津島神號ノ原因是ナリト云然レバ此祠ノ祭神本來何タルコトヲ知ル可ラズ○此和志取近世枚田庄ニ入ル其年歴不詳曩昔志貴庄也其考證歷々存ス

○碧海郡誌(西本郷村)

塚墓 重代記云鶯取卿御尊宅ノ跡へ藥王寺ヲ建(句絶)改則蓮華寺ト稱ス此辰己ノ方ニ鶯取卿ノ墓アリ又南ノ方ニ小塚アリ山賊之塚ト云其已來大鶯賊ト云山賊アリ往還旅人ヲ令煩故帝王之依勅命公卿退治給從是鶯

取卿ト御名ヲ申奉リ此所ニ御尊宅有ト云々和志取郷和志取神社等ノ原因皆此鶯取卿ニ在リト見エタリ

○碧海郡誌(西本郷村)

論說 ○問フ和志山ノ鶯取塚重代記ニ記ス所ノ如クナラバ鶯取ノ濫觴茲ニ在リ郡志ニ何ゾ該地ノ津島祠ヲ以式内和志取神社ト看做サルヤ曰重代記ニ塚アルコトヲ載テ神祠アルコトヲ言ハズ此書農民ノ名ヲヌラ猶且詳明ニ記ス况ヤ當時神祠アラバ豈記セザラン哉云々

考證 鶯塚

○和志取神社御取調ニ付書上

三河國第九大區内小一區

碧海郡鷺塚村

當村産土神社創建年代祭神來由社領等古昔ノコトニテ
記録類寛永度火災ニテ類焼イタシ方今確證無之候へ共
鷺取神社ト申コト古來ヨリ申傳エ候社地并社地ノ東北
ヲ字わし山ト唱南ヲ渡場ト唱へ候往古海濱ニテ
延喜帝尾張國ヨリ三河國エ御渡海ノ時御船ノ着レ所ニ
テ其節當社御參詣御座候ライシ由菅原道真公モ當社エ
御祈願靈驗アリテ公ノ伯父公ノ爲賽ノ節當村ニテ御止

宿

右御宿致シ候者三人ノ内二人之跡ハ退轉シ一人ハ于
今相續神宿久松ト申候其節綱敷天神ノ幅髮搔小栴已
上三品ヲ賜リ候由久松所持罷在候

從臣ノ内ワレノヲミコト罹痾當村ニ而卒ス社地ヨリ北
一丁斗リ隔リ候所ニ松ノ老巨樹コレアリワレノヲ墓標
ト申傳候

菅公御祈願ノ由緒ヲ以テ當社合殿勸請イタシ候由年度
不相分候始ハ白幣ヲ捧ゲ後年神像安置イタシ候
右古來ヨリ傳聞等概略申上候處相違無御座候以上

明治六年八月

○參河國官社考集說(和志取神社)

鈴木本云鷺塚村天滿天神也ト云非ナラム又云鷺塚新田可尋歟戸○本云鷺塚村天滿宮社人清水清七千足本云正幸云ワレ塚村ハ古幡豆郡ナリ和名抄ニ大濱修家トアル修家ハワレ塚ノコトナリ予天保十年九月鷺塚村ノ産土神天神社ニ參詣ヅル其社地ハ三方田ニテ(古クハ入海ナルベシ)築出シタル如キ岡ニテ社ハ其高キ極ノ北端ノ所ニ在テ本社四尺許外屋アリ拜殿二間三間石ノ鳥居アリ其社人清水清七ト云訪テ問聞ルニ例祭ハ六月十五日也

古キコトハ知レズト云リ

○碧海郡誌(鷺塚村)

郷庄 志貴庄(慶長以前幡豆郡ニ屬ス)

○碧海郡誌(鷺塚村)

神祠○村社天滿神社 官有地

祭神 右大臣菅原道真

創安年歴不詳

○無格社天滿社字神有○土俗神有村ト稱ス素ヨリ村ニ非(官有地)

祭神 右大臣菅原道真

創安時世不詳(一説云伊勢國山田産山田右近衛ト云
 廟祝寛治元年丁卯北天神ト云地ニ安置ス後年ヲ經テ
 西天神ト云地へ遷座應永中今ノ地ニ遷祠○三河志云
 鷲塚ト云ヒ神有ト云へハ鷲取ノ神社ニ因有ゲニ思へ
 ドモ未其證ヲ見ズ又云神有昔ハ龜穴ト書タル由古傳
 有リ然レハ神有字徴トナラズ

○無格社御歛社 官有地

祭神 伊射波止美命玉柱屋姬命

創安年時不詳

○無格社八幡社 官有地

祭神 應神天皇 創安歲月不詳

○無格社神明社

祭神 豊受大神 更歴不詳

○無格社白山社 官有地

祭神 伊邪那美尊 創安年紀不詳

考證 高取

○三河二葉松(寺院部)

碧海郡

寺領五石右同宗

一高鳥村

專修坊

本寺同斷

○參河國官社考集說

政香又云碧海郡ニ高鳥村アリ其村ニ專修坊ト云ル一向宗ノ寺アリ其寺ノ古記文又慶長ノ御朱印文ニ鷹取村トアリ古書ニ鷹ト鷲ト通ハシ云ル例モアレバ是ナラムカ可考ト云リ

予天保十年九月高鳥村ニモノシテ其産土神ニ詣テ、聞ルニ神明社ニテ中殿神明左右春日八大龍王三座相殿ニテ例祭八月廿三日也一村不殘一向宗ニテ社人モナク古キコトハシレズト其村人云リ

(欄外記)忠順曰續紀三十二三卷藤原鷲取又藤原鷹取ト云

人アリ鷲ト鷹ト通ハセ云トキハ此二人ノ名混ジターツトナラムサルコトアルベクモアラチバ此政香ノ說非ナリ明治七年十二月和志取神社檢査ニ付文部省ヨリ伊賀國敢國神社宮司田中間房三河國砥鹿權宮司岡部政美ニ命シテ派出セシメ此時忠順ハ愛知縣庶務上等雇トナリテ此コトニ參事セシム故ニ高取村ノ戸長ナシテ專修坊ノ記録ヲ探索セシムルニ高取トアリテ鷹取ニアラズカ、レバコ、ノ說ハ政香ガ社井ナリ本文トルベカラズ

○三河國廿六座之内和志取神社御調ニ付書上

同國碧海郡第九大區二小區

高取村鎮座村社神明社

和志取神社之儀先般已來當大區五小區西本郷村ヨリ追々地名字等ヲ以奉願候趣傳聞仕候處當村名之義者タカトリ村ト稱シ候得共全ク往古昔ワシトリ郷ト申候義ニテ確證等モ有之且往古驚取ト稱ヘ候事故即當時村社ニ被仰付候神明宮者式内和志取神社ニ可有之御調査奉願候處各村此度篤ト取糺進達可仕被仰付奉畏候

一聖德太子裏書

一通

一三朝高祖裏書

一通

一村内神社ニ付舊記

一通

右之寫左之通ニ御座候

聖德太子眞影

本願寺釋宣如判

寬永十二乙亥〇八〇

佐佐木上宮寺下三州碧海郡志幾庄内驚取郷專修坊定住物

三朝高祖眞影

本願寺釋宣如判

寬永第十二乙亥歲白露節書之

佐佐木上宮寺下三州碧海郡志幾庄内鷺取郷専修坊常
住物也

古書寫

曆應四歲八月吉日

宮はしまりたて拾貳間よと拾貳間さうやしろさうの
たちはしまり高さ三尺五寸さうのまわり二尺五寸此
宮に七人よりやいとまをたき新めいといわいとめ此
屋しろ之内松うゑ東より五間此松ニ付鷺取あらんか
きりは松ゑたはまで末のよまてはほこり其時新めい
のさうの下よりよのまの内にほくでき申候ふしんを

たてこれはしまめいと此ほくをしんめいといわいとめ

惣左衛門

次太夫

吉兵衛

市郎兵衛

忠左衛門

新左衛門

次兵衛

●編者云 高取と鷹取と鷺取との事は此に審理を遂ぐる
に官社考集説に政香の云ふ所は鷹取とあり又同番欄外

に忠順の云ふ所は鷹取にあらざりて高取なり又書上に記す所は驚取とあり之を要するに政香の説は杜撰の評を免れず書上は贋物偽造の疑團を免れず何となれば固より驚取とありしものならむには政香の説に鷹取とあるべき理由なし若又驚取とあらむには明治七年の調査に際し特得として其書を示すべき道理なり然るに甲の聞知する所は鷹取と聞知し乙の認知する所は驚取にあらざるのみならず鷹取にもあらざりて高取なり之に書上の文字を對照すれば高取とありしものを驚取と變更偽作と大に瞞着の手段を構へたるものなり猶書上の奥

に左の文あり

一郷村古キ事不相分尤專修坊當世三十七世也開基貞觀年中三井寺智澄大師之弟子ト申事候凡千年夫ヨリ往古之郷村ニ御座候

九大區二小區碧海郡高取村

氏子惣代 神谷 右衛門判

副戸長介 酒井 祭之助同

同 河角 傳四郎同

明治六年

愛知縣令鷺尾隆聚殿

以上ノ考證ニ徴スルトキハ鷲塚非ナリ高取亦非ナリ宇頭ノ如キハ一ニ和志取郷ノ地タルヲ証明シ二ニ和志取ノ名義ノ起因ヲ証明ス其ハ左ノ考證ヲ參看スベシ

考證 宇頭

大日本名所圖錄志貴村大字宇頭本村志貴庄鷲取郷元地古ハ鷲ノ郷ト單稱ス今モ隣地字蓮花山ニ和志山アリ是其一證也古ハ此山本村ノ所有地鷲郷ニ大鷲ト稱スル強賊アリ此賊ハ姓氏錄ニ御室雜使大王生等天皇ニ任ズ人民ヲ掠奪ス景行天皇ノ皇子氣入彥命勅ヲ奉ジテ之ヲ誅シ玉ヲ鷲取ノ稱爰ニ原ツク又鷲賊一人ヲ捕リシガ爲ニ

稱セシニ非ズ取ハ照ト全シ鷲照也鷲郷ヲ治ノシ宮人(氣入彥命御立史)而孫亂ヲ鎮メ仁政ヲ施シ人民其德ニ懷ク是ヲ美稱レテ鷲照ト云フ後世鷲鳥トモ鷲取トモ云フ也村社古昔字御立ニ鎮座アリレテ後此地ニ移シ奉ル此地ハ即日本武尊東征ノ時懸ヒ給ヒレ舊跡ナリ又箭竹藪ト云フ古跡モ矢竹ヲ切り玉ヒレ處アリ當社倒祭ヲ日本武尊ノ大例トシ神明宮并王公トス每祭ニ九塚ヲ祭ルノ例アリ切餅ヲ塚ノ如ク盛ル是ヲ九塚ノ神靈ニ捧グル例トス九塚ノ神靈ハ氣入彥命ト云フ和銅ノ昔藥師瑠璃光如來御立笠取ノ池ヨリ出ツ豊阿彌長者ノ念珠佛トス行基

菩薩ヲ開祖トシ藥王寺ノ本尊天文年間合戦ノ時火災ニ罹ル元和二年四月第一ノ大塚ノ傍ヨリ藥師掘出ス此塚ヲ氣入彦命ノ古墳ト云フ明治廿二年九塚ノ内ヨリ五尺八寸古製太刀一口金環一個出ツ廿五年小柄兜ノ印古鏡六個出ツカクテ此塚氣入彦命并御立史ノ舊跡ニシテ昔ヨリ本村ノ地名ニ唱ヘテ炳然タリ然レバ氣入彦命御立史ノ治積有リテ和銅年間豊阿彌長者小野正滿長者居住ス正治二年天臺宗醫王山鳳覺寺本尊藥師如來聖德太子今ニ現在ス其時ノ住職ヲ永親ト云フ文曆元年五月高祖親鸞ノ弟子トナル染筆六字ノ名號ヲ受ク青龍山聖善寺

ト改號ス今尙正滿長者位牌聖善寺ニ豊阿彌長者古鍛冶等位牌藥師安置ス

○檢地帳(宇頭村)

御立

- 一上田四畝廿七步 八右衛門
- 一上田二畝步 同 人
- 一上田二畝六步 同 人
- 一上田一反一畝三步 捨右衛門
- 一上田八畝廿七步 友 五 郎
- 一上田一反一畝二步 五郎右衛門

一上田六畝歩

吉右衛門

○檢地帳(宇頭村)

御立

一下畑一畝八歩

次郎右衛門

一下畑一畝廿歩

源右衛門

一下畑一畝廿三歩

傳十

一下畑四畝廿三歩

五郎右衛門

一下畑一畝一歩

清右衛門

●編者云 右の檢地帳は寛文四年八月十五日神山五郎大夫と安達新左衛門と連署して奉行所へ届出でたるもの

なり

○宇頭村地圖書入

一舊字御立 地名宮跡

一御立笠取池

一舊字御立 (畑地)

一舊宇御立 城址

●編者云 御立はミタナと訓むべし氣入彦命の御館の在りし所なるより起りし地名なり此地は柿崎村の南に方りて其距離柿崎のワシトリと云へる地と最近に往古の海岸一帯の地續なり柿崎宇頭尾崎三村の接近したるは

宇頭尾崎兩村の山論に係り寶曆十三年十一月八日宇頭村の名主勘右衛門外十七名より奉行所へ上進せれる古文書の文中に

一此前キ御順見神尾若狹守様御下り之節御先御案内宇頭村名主相勤申候尾崎村御案内ニ罷出候所ニ尾崎村之儀者古帳面ニ無之新村ニ候間案内無用と御差留被遊候尾崎村之儀水野主膳様御領知柿崎村より往昔出口ニ御座候謂申傳ニ御座候云々

一云々右亥ノ子山之儀百二年以前寛文二寅年岡崎御領知長瀬村と水野主膳様御領知柿崎村尾崎村ニケ村と

山論仕御裁許相濟候以後尾崎村山御年貢前々より定米七斗ニ〇シ山割渡シ候様ニ柿崎村と尾崎村へ被仰渡如此山訣仕候ニ付云々

とあり猶左の一説をも参考すべし

○和志取地名考

一延喜式驛傳馬

參河 鳥捕 山綱 渡津

右鳥捕ハ鷺取ナランカトノ説アリ果シテ然リトセハ夫ノ柿崎村和志取神社ハ平原突出ノ地ナレバ茲ニ宿驛ヲ設ケ左ノ方小針村橋目村等ノ海岸ニ沿ヒ藤川ノ

南ナル山綱驛ヲ經テ(額田郡山綱村アリ)渡津驛(今寶飯郡宿村ナリ)ニ出デシナラン柿崎村ノ隣邑宇頭村ニ九塚ト云フ塚アリ刀劍等ヲ掘出ストアリト云フ既ニ古塚アリ果シテ之ヲ延喜ノ一驛トセバ式内神社ノアルモ亦縁由近キガ如シ云々

○和志取地名考

鷺取郷ハ矢矧川ヲ界ヒテ宇頭村ヨリ地勢隆起シ沃野曠郊ナリ春時ニ方リ東海道ノ行松間ヨリ北ノ方柿崎村ヲ一望スレバ綠麥黃菜ノ田畝連互シテ遠山ハ波濤ノ如ク翠嵐重疊タリ

○豐阿彌長者位牌銘

志貴庄 和志取郷

和銅六癸丑年

表 豐阿彌長者

三月六日

和志王山 藥王寺

○小野正滿長者位牌銘

貞觀十七乙未年

表 小野正滿長者

四月三日

志貴庄 和志取郷

裏 醫王山 鳳學寺

○鰐口銘

延寶六戊午年

村中

志貴庄和志取郷

●編者云 右の位牌二個と鰐口一個とは矢作町大字宇頭薬師堂の所蔵なり今案ふに宇頭村の南に鷲山あるは賊大鷲の住みたりと處なり地理に就きて推究せむに賊は捕られむとするに方りて當時の海岸に沿ひ北へ走りたること疑なし遂に北の方柿崎へ抵り捕へらる是柿崎村

にウシトリの字ある所以なり氣入彦命は賊大鷲を捕へて功を奏し館を宇頭の地に築きて子孫永く其地に住む是宇頭村にミタナの字ある所以なりミタナの地名定まりて後氣入彦命の子孫猶其地に住む是御立史の姓を賜へる所以なり事の此に至れる其本は賊大鷲を捕りて上は勅慮を安奉り下は人民は救濟したるにあり是を以て彼大鷲を捕へし柿崎の地をウシトリと字し終に和志取の郷名成れり柿崎村に接近したる宇頭の薬師堂に所蔵せる位牒に和志取の郷名あるより推さむも柿崎村の字のウシトリの郷名と成れるは和銅以前の事なり

○碧海郡誌(宇頭村)

○藏弄

古神位

志貴庄和志取郷

和銅六癸丑年

豊阿彌長者

三月六日

和志王山 藥王寺

縦一尺五分○是和銅中ノ作ニハ非後世藥王寺僧ノ設ル所ノ如シ然ドモ其製近世ノ物ニ非

○村社神明社御由緒調査書

古器物

明治十八年十一月字御立の地なる第三の塚を發掘せしに古瓶子二個出でたり

明治二十二年一月第四の塚を發掘の際古製の太刀(長五尺八寸巾三寸三分)及古製の金環一個出でたり

明治二十五年三月第五の塚を發掘せしに古錢及小柄の印一個出づ

○新撰姓氏錄(左京皇別上) 御使朝臣

出自謚景行皇子氣入彥命之後也譽田天皇御世御室雜使大壬生等逋逃不仕天皇遣使尋求並不復命於是氣入彥命奉詔括追於參河國捕獲參來天皇嘉令使者賜姓御使連也續日本紀合

○新撰姓氏錄(右京皇別下)
御立史

御使同氏氣入彥命之後也持統天皇御代依居參州青海郡御立地賜御立史姓日本紀漏

○姓氏一覽十
御立史

姓氏右京皇別下御立史御使同氏氣入彥命之後也持統天皇御代依居參河國青海郡御立地賜御立史姓日本紀漏

○新撰姓氏錄考證二(左京皇別上)

參河國青海郡志貴庄和志取郷といふあり(今は志貴村といふとぞ)其處に蓮華寺山あり土俗の傳に此山に逋逃せる大王生住居せりその勢驚の如き故驚王とも云ひて人民之を畏れき然るに氣入彥命詔をうけ玉はりて今の蓮華寺の地に捕へ獲たり其三町程の北に氣入彥命の城を築て住玉ひし處ありこれより其地を和志取と云り

○新撰姓氏錄考證五(右京皇別下)

土俗の傳に碧海郡宇都村に氣入彦命の古城址と云あり
本村神明宮の舊社地を字御立と云其東北に神の御たらし池あり

●編者云 姓氏錄に氣入彦命とあるは五百城入彦皇子の
五百の二字を畧けるなり其は左の傳に據りて知られた
り

○釋日本紀四

大足彦尊 景行

大碓皇子

小碓尊

稚倭根子皇

稚足彦天皇 成務
母八坂入媛

五百城入彦皇子 母同上

品色眞若皇

高城入姫應神妃

仲姫命應神后仁德母

弟姬應神妃

忍之別皇子

大酢別皇子

淳尉斗皇女

淳名城皇女

五百城入姬皇女

曩依姬皇女

五十狹城入彥皇子

吉備兄彥皇子

高城入姬皇女

弟姬皇女

五百野皇女

神櫛皇子

稻背入彥皇子

武國疑別皇子

日向襲津彥皇子

國乳別皇子

國背別皇子

豐戶別皇子

豐國別皇子

○碧海郡誌(宇頭村)

村名 義不詳今強テ考ルニ或ハ獨活生ノ義歟本村ニ獨活ノ生ズ可キ卑温ノ地多シ延喜式ニ古者參河ヨリ獨活ノ貢獻モ有リ(獨活ハ貢藥廿一種ノ一也)

統領 正保二年乙酉以來岡崎城主數氏歷世ノ領爲リ以明治ノ際ニ至ル

郷庄 志貴庄和志取郷

○碧海郡誌

神祠 ○村社神明社 官有地

祭神 大日靈貴尊

現今ノ地ハ字御休舊地ハ其南字御立ニ在リ古豐阿彌又小野正滿ト云者有テ各氏ノ後裔累世尊崇レ來ル後神祠燒亡シテヨリ御休ニ遷スト云祠址ニ古塚三有リ其第三坤位ノ塚半月形ヲ做ス蓋南北二村經界ヲ分ツノ時鑿斷レテ半規ヲ蝕フ(半月塚ヨリ以南ハ現今蓮華寺山也西本郷ニ屬ス)或曰曩昔本村地論ニ因テ蓮華寺山ヲ亡フ新ニ經界ヲ正レ半塚以南他村トナル(年歴不詳)

古來例祭 八月六日 日本武尊

和志取神社誌 終

跋文

參河國官社私考てふもの世に出でくより延喜式なる和志
取神社をこれかれ人のあらそひてたのもくたのがどの
みいひつものりにければ預れる官人等もほととにあつか
ひなやみてこそありけらしき柿崎の中尾主年まねく心こ
らひて書いとさはにあつめたりけりその中よりも抜取り
れのれも加へて一卷の考證物を編纂し和志取神社誌とな
づけつるはすなはち此書になむ時は明治四十年の秋九月
かくいふはものくふの矢作のさとに住める大久保芳太郎
源朝臣芳治なり

明治四十年九月廿五日印刷
明治四十年九月三十日發行

編纂者 愛知縣三河國碧海郡矢作町大字矢作
百三十六番戸 大久保芳太郎

發行者 愛知縣三河國碧海郡矢作町大字柿崎
拾番戸 中尾 豊次郎

印刷者 愛知縣三河國額田郡岡崎町大字籠田
五拾壹番地 手島喜代三郎

印刷所 愛知縣三河國額田郡岡崎町大字籠田
五拾壹番地 岡崎 活版所

246
8

